

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--------|-------------|----------|--------|-----|--------|-----|------|-----|
| 1. 科目名 (単位数) | オーガニゼーション特論 (2単位) | 池袋・名古屋 | 3. 科目番号 | SSMP5359 | | | | | | |
| 2. 授業担当教員 | 【池袋】武本 隆行 【名古屋】岡田 広司 | | | | | | | | | |
| 4. 授業形態 | 講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッションを伴ったものにする。授業担当教員が実践した新事業推進組織の事例を加えるため、企業視察なども取り入れる。 | | 5. 開講学期 | 秋期 | | | | | | |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | | 履修形態 (通信教育) | R | | | | | | |
| 7. 講義概要 | <p>現代社会においてオーガニゼーション、つまり組織はあらゆるところに存在し、それがなくては私たちの生活や事業が成り立たないものとなっている。また、高い効率を達成するためには組織的な管理・運用が必要である。</p> <p>本講義ではオーガニゼーションの基礎から、環境に組み込まれた組織、組織構造のデザインと組織文化、プロセス、組織のダイナミクス、非営利組織など幅広いオーガニゼーションの学習を進めながら、受講者の関心があり、深く関係する領域については、さらに深く学習する。</p> <p>組織論は、経営管理論と経営戦略論さらには事業創造論との関連が深いので、それらの学習を組み込み、受講者の身近で実践的課題を取り上げながら講義を進め、常に社会の実践活動で役に立つ視点からの講義を進める。</p> <p>授業の進め方は、教科書は特に指定することなく、各授業回でテーマに沿った講義資料を提供し、ディスカッションを含めて学習する。</p> | | | | | | | | | |
| 8. 学習目標 | <p>1. オーガニゼーションの枠組みや役割についての基礎的理論を理解する。</p> <p>2. 基礎的理論を基に実践的な経営戦略や経営管理の中で、オーガニゼーションを活用する力を育成する。</p> <p>3. 福祉、介護、医療関連などを中心とした経営組織で活用できる創造力を育成する。</p> | | | | | | | | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。 | | | | | | | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【参考文献】桑田幸太郎・田尾雅夫著 (有斐閣アルマ)『組織論』有斐閣、2011年。</p> <p>稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝 (有斐閣アルマ)『経営組織』有斐閣、2012年。</p> <p>岡田広司編著『戦略的イノベーションの経営』あるむ、2007年。</p> <p>岡田広司著『現代マネジメント概論 現代経営学基礎講座 I』あるむ、2011。</p> <p>高尾義明著『はじめての経営組織論』有斐閣、2019。</p> <p>西村和人著『介護施設の人事・労務管理と就業規則』日本法令、2011年。</p> <p>稲葉元吉著『組織論の日本的展開、サイモン理論を其軸として』中央経済社、2010年。</p> <p>ロバート・サイモンズ著『戦略実現の組織デザイン』中央経済社、2008年。</p> | | | | | | | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準 本特論を受講した結果、「授業内容の理解度」の他、主に次の能力の習得度を評価規準とする。 「論理的展開思考」「創造的発想」「実践的応用展開」「緻密な表現と発表技法」</p> <p>○評定の方法</p> <table border="1"> <tr> <td>レポート提出</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>授業参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業準備</td> <td>10%</td> </tr> </table> | | | | レポート提出 | 60% | 授業参加態度 | 30% | 授業準備 | 10% |
| レポート提出 | 60% | | | | | | | | | |
| 授業参加態度 | 30% | | | | | | | | | |
| 授業準備 | 10% | | | | | | | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>受講生が背景とする組織は多種に及ぶと思われます。オーガニゼーションの基礎理論や現実の課題を考察しながら、受講生の関心のある課題についてさらに学習を深めます。また、学習に当たっては、授業担当教員が長年企業で取り組んだ組織活動の事例、産学官連携の中で進めてきたバリアフリーの研究などの事例を導入して、実践的で有効的な講義にする。</p> <p>受講生が社会で組織の経営や戦略的に経営管理を考える場合に役立つ授業にする。</p> | | | | | | | | | |
| 13. オフィスアワー | 別途通知する。 | | | | | | | | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | | | | | | | | |
| 1. テーマ | オーガニゼーションの定義と学ぶ意義 | | | | | | | | | |
| 【学習の目標】 | オーガニゼーションの基本的構成要素を理解し、現代社会に生きるなかでこの学問を学ぶ必要があるかを理解する。 | | | | | | | | | |
| 【学習の内容】 | <p>1. 企業、病院、大学、自治体、労働組合、或いはボランティア団体などの遍在性、組織の高度化や複雑性を学習する。</p> <p>2. オーガニゼーションが個人や社会に与える影響、また消費者として組織内部の参加者としての役割を学習する。</p> | | | | | | | | | |
| 【キーワード】 | 組織の時代、組織と現代社会、市場メカニズム | | | | | | | | | |
| 【学習の課題】 | オーガニゼーション内部の参加者としての経営管理者のあり方 | | | | | | | | | |
| 【参考文献】 | 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。以下、各テーマとも同じ。 | | | | | | | | | |
| 【学習する上での留意点】 | 各自の知る範囲で、身近なオーガニゼーションとの比較をして、関心を持って考察を深める。 | | | | | | | | | |
| 2. テーマ | 組織均衡と組織論の概念 | | | | | | | | | |
| 【学習の目標】 | 組織均衡論を解説し、それに基づいてオーガニゼーションの有効性や効率性、その限界などを理解する。 | | | | | | | | | |
| 【学習の内容】 | <p>1. 組織均衡論と組織の有効性と能率、オープニングシステムとしてのオーガニゼーションを学習する。</p> <p>2. オーガニゼーションが存続するための要件、構造概念、短期適応と長期適応の考え方を学習する。</p> | | | | | | | | | |
| 【キーワード】 | 組織均衡と組織の存続、オープニングシステムとしての組織 | | | | | | | | | |
| 【学習の課題】 | 組織均衡論が基本的枠組みとする内部環境と外部環境、ミクロ的課題とマクロ的課題に注目する。 | | | | | | | | | |
| 【参考文献】 | 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。 | | | | | | | | | |
| 【学習する上での留意点】 | 組織均衡論の概念をつかむ。これまでに各自が関わった組織と個人との関係などを事例として考察したい。 | | | | | | | | | |
| 3. テーマ | オーガニゼーションの戦略的選択 | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| | <p>【学習の目標】 オルガニゼーションが経営資源や環境に合理的に適応する戦略的選択の理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 組織理論の基本的定理と組織による経営環境の戦略的選定、企業ドメインの戦略決定を学習する。 2. 組織ドメイン、事業ドメインを生かした市場浸透戦略、市場開拓戦略など、市場戦略を学習する。</p> <p>【キーワード】 経営戦略、事業ドメイン、マーケティング戦略</p> <p>【学習の課題】 オルガニゼーション機能を効果的に活用するための戦略的思考や創造的思考の重要性を意識したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 どのような領域においてもオルガニゼーションの戦略的選択が重要であることを、学習を通して体験したい。</p> |
| 4 . テ ー マ | オルガニゼーションへの環境からのコントロール |
| | <p>【学習の目標】 外部環境によって組織の戦略が制限されること、組織間関係において環境構成者がパワーを行使する可能性について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 資源依存と組織間関係、利害関係組織のありかた、資源依存と外部環境からの統制を学習する。 2. 資源の重要性、資源配分と使用に関する戦略、組織の環境戦略について学習する。</p> <p>【キーワード】 組織間関係、外部環境、環境戦略</p> <p>【学習の課題】 組織は戦略に従い、経営戦略と組織の重要性を意識し、さらに組織間関係のあり方に注目して学習したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が企画・開発して成功した事業のオルガニゼーションに関するプリント及び指示する参考書等を参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オルガニゼーションは、環境からのコントロールや組織間関係により、資質が変わることに注目したい。</p> |
| 5 . テ ー マ | オルガニゼーションの目標と組織有効性 |
| | <p>【学習の目標】 オルガニゼーションの意思決定において外部環境からの影響によりどのような行動をするのかについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 現実のオルガニゼーションの意思決定をする概念、組織目標の形成と変革、財務目標決定事例を学習する。 2. オルガニゼーションにおける有効性指標、組織における有効性に関するモデルを学習する。</p> <p>【キーワード】 組織有効性指標のダイナミクス、組織目標、財務目標ネットワーク</p> <p>【学習の課題】 組織目標の複雑性を考察し、従業員中心の目標システムの事例などを理解し、組織目標の考え方を理解したい。</p> <p>【参考文献】 担当教員が実践したビジネス組織活動事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オルガニゼーションの目標やその有効性と理論に対して事例との対比を通して理解を深めたい。</p> |
| 6 . テ ー マ | オルガニゼーションの構造とデザイン |
| | <p>【学習の目標】 オルガニゼーションの基本的構造とそのデザイン及びデザイン要素について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 組織の安定した相互依存関係、官僚システム、サイズと組織デザインについて学習する。 2. オルガニゼーション成立のデザイン要素、組織の分割、人間の集合としてのオルガニゼーションを学習する。</p> <p>【キーワード】 組織構造、組織デザイン、官僚制システム</p> <p>【学習の課題】 組織構造の典型的なモデルが官僚制システムである。その肥大化と硬直化に対して、新しいシステムのあり方に注目して学習する。</p> <p>【参考文献】 担当教員が実務家として活動したオルガニゼーションに関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 日本企業が着実に発展した背景にある官僚制システム、ヒエラルキーなどに対して考察したい。</p> |
| 7 . テ ー マ | コンピュータ化と技術革新 |
| | <p>【学習の目標】 コンピュータの導入などによる新しい技術の採用がオルガニゼーションに与えた変革について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 組織ドメイン、コミュニケーション・コントロール、技術決定論について学習する。 2. コンピュータ導入によるオルガニゼーションの変革、影響について考察し、ジョブ・デザインモデルを学習する。</p> <p>【キーワード】 コミュニケーションと意思決定、技術革新、コンピュータ化</p> <p>【学習の課題】 コンピュータ導入がもたらすオルガニゼーションにおける変革とジョブ・デザインへの影響</p> <p>【参考文献】 担当教員が体験したコンピュータ導入によるビジネスやジョブ革新に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 コンピュータなどの導入による技術革新は様々な点で有用性をもたらしたが、失ったものもあるのではないかという視点も持ちたい。</p> |
| 8 . テ ー マ | オルガニゼーションと文化 |
| | <p>【学習の目標】 オルガニゼーションの文化とは、構成する人々が共有する価値や信念、行動がもたらすシステムであることを理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 行動環境として生活空間、組織風土、組織文化の形成を学習する。 2. オルガニゼーションの文化形成の解説として、組織文化と官僚システムの関係性を学習する。</p> <p>【キーワード】 組織文化、組織のカルチャー、生活空間、組織風土</p> <p>【学習の課題】 オルガニゼーションが持つ組織風土やコミュニケーション・ネットワークがどのようにして組織文化を創り上げて行くのか。</p> <p>【参考文献】 オルガニゼーションがもたらす組織文化の事例テーマや指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 オルガニゼーションが創る文化や風土が組織のあり方や経営管理システムに影響を与えるという点に注目したい。</p> |
| 9 . テ ー マ | モチベーションの理論 |
| | <p>【学習の目標】 欲求説と過程説から成るモチベーション理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 組織人とは何か、モチベーション管理、適応と不適応について学び、欲求説の理論構造を学習する。 2. モチベーションの理論として過程説の理論構造、組織コミットメント、組織変革とモチベーションを学習する。</p> <p>【キーワード】 モチベーション管理、欲求モデル、組織変革</p> <p>【学習の課題】 欲求モデルと2つのモチベーション理論の関連</p> <p>【参考文献】 企業時代、多くの社員のモチベーション管理を進め、事業に成功した事例資料や指示する参考書などを参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 動機づけを円滑に推進するような状況整備がモチベーション管理には欠かせない。各自の経験との比較・考察をしたい。</p> |

| | |
|--------------|--|
| 10. テーマ | マネジメント・コントロール |
| 【学習の目標】 | オーガニゼーションにおけるマネジメント・コントロールについて理解する。 |
| 【学習の内容】 | 1. オーガニゼーションにおける対人的影響、リーダーシップの資質、コンティンジェンシー・モデルを学習する。 2. 組織におけるリーダーの役割、カリスマ、状況変革者、職場集団のダイナミクスを学習する。 |
| 【キーワード】 | リーダーシップ、コンティンジェンシー・モデル、カリスマ |
| 【学習の課題】 | 人が集合すれば、大きな行動力になる反面コンフリクトも生まれる。マネジメント・コントロールの優劣が経営の成否 |
| 【参考文献】 | 担当教員が体験したマネジメント・コントロールに関するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 人の集合は、放置すれば烏合の衆である。必ず適切なマネジメントを必要としている。 各自の体験と比較して関心を高める。 |
| 11. テーマ | 組織の長期適応と発展過程 |
| 【学習の目標】 | オーガニゼーションの発展段階についての比較モデルを学び、組織の長期適応について理解する。 |
| 【学習の内容】 | 1. 組織の成長、規模の拡大によって生ずる組織変革を理解するためのライフサイクル・モデルを学習する。 2. チャンドラーのモデルなど経営戦略と組織のダイナミクス、組織文化のダイナミクスを学習する。 |
| 【キーワード】 | ライフサイクル・モデル、経営戦略、組織のダイナミクス、チャンドラー・モデル |
| 【学習の課題】 | 経営資源蓄積期から始まり、組織形成期、成長期、組織の革新から成るチャンドラー・モデルの考察 |
| 【参考文献】 | 担当教員が組織の変革と企業の発展に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 経営戦略を実施するには適切なる組織の変革が重要である。 チャンドラーが言う「組織構造は戦略に従う」の意味に注目したい。 |
| 12. テーマ | オーガニゼーション学習と戦略的変革 |
| 【学習の目標】 | オーガニゼーションの長期適応過程のメカニズムとして組織学習の概念を理解する。 |
| 【学習の内容】 | 1. 個人が経験から学習するように、オーガニゼーションもまた学習するという組織学習の概念を学習する。 2. 組織学習の基本的メカニズム、完全な組織学習サイクル、不完全な組織学習サイクルについて学習する。 |
| 【キーワード】 | 組織学習、組織学習サイクル、組織の戦略 |
| 【学習の課題】 | 組織の戦略、構造、文化、プロセスなどを抜本的に変革する戦略的組織変革への障害 |
| 【参考文献】 | 担当教員が新製品開発など企業で実践した体験と組織の学習に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 完全な組織サイクルと不完全な組織サイクルの違いを明確にしながら、組織学習の基本的メカニズムに留意する。 |
| 13. テーマ | 非営利組織と公的セクターの組織 |
| 【学習の目標】 | 非営利組織として行政組織、地方自治体について理解する。 |
| 【学習の内容】 | 1. 公的セクターの基本的な成り立ち及び組織と環境について学習する。 2. 行政サービスの構造及び超高齢化社会における地方自治体のあり方を学習する。 |
| 【キーワード】 | 非営利組織、公的セクター、超高齢化社会 |
| 【学習の課題】 | 非営利組織である自治体組織は限られた社会資源を公平に分配しなければならない。 行政サービスのマネジメントに注目したい。 |
| 【参考文献】 | 全国の非営利組織での事例に関するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 今後4人にひとりが65歳以上という超高齢社会を考えれば、非営利組織が社会的にその重要性を増すという視点に立ちたい。 |
| 14. テーマ | ヒューマン・サービスの組織 |
| 【学習の目標】 | 非営利組織として医療、福祉、介護、いわゆるヒューマン・サービスの組織について理解する。 |
| 【学習の内容】 | 1. ヒューマン・サービス組織及びコストを少なく便益を多くする合理的な形態としての官僚制システムを学習する。 2. 医師、看護師、理学療法士などのプロフェッション集団からなるプロフェッション組織及びその経営管理を学習する。 |
| 【キーワード】 | ヒューマン・サービス、官僚制システム、プロフェッション集団 |
| 【学習の課題】 | 病院などのヒューマン・サービス組織はプロフェッション組織として、難しい問題を抱えている。そんな経営管理の課題に注目したい。 |
| 【参考文献】 | 介護施設や病院の資料など、担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 超高齢社会を迎え、営利が必ずしも活動の中心にない組織が重要になる。 つまりヒューマン・サービス組織の重要性に留意したい。 |
| 15. テーマ | ボランティア組織及びオーガニゼーションの未来と課題 |
| 【学習の目標】 | 非営利組織としてボランティア組織を理解し、今後のオーガニゼーションの発展と課題を洞察する。 |
| 【学習の内容】 | 1. 第3セクターとボランティアリズム及びボランティア組織の経営管理について学習する。 2. オーガニゼーションの基本的な考え方の再確認及び組織論の発展と人間観について学習する。 |
| 【キーワード】 | 第3セクター、ボランティア組織、ネットワーク組織 |
| 【学習の課題】 | オーガニゼーションの発展が人間の意思決定プロセスにもたらす変化と効果 |
| 【参考文献】 | 担当教員が配布するプリント及び指示する参考書などを参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 今後社会的に重要になる課題として非企業、非営利のオーガニゼーションに関心を向け、バランス感覚を持って学究する。 |